

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす [ファイン・ファイネット]

FINE FINET

[FINE FINET 30th MEMORIAL NUMBER]

30号記念特集

これまでの歩み
(2003年～2014年)

印象的なひとこと
シリーズ企画の歴史

外からみたファイネット
ファイネット ヘルプデスク便り

[Finet Information]

「インターネット手順」への切替で通信がますます便利に!

商品情報授受の標準化、効率化実現を目指して

～活動のステージは [品質 230] から PITS へ～

ファイネットは国際規格「ISO27001」の認証を取得しております

Vol. **30**
2014 Spring
ファイネット発行

[特別号]

特集

これまでの歩み



1 誌面を飾った印象的なひとこと

※本文中の社名・所属・肩書などの表記は当時のものです

創刊号 2003 Autumn

ファイネットの仕事というのは大きな時代の流れにそったビジネスではないか。強くそう思いますね。

味の素(株) 代表取締役社長
江頭 邦雄 様



2号 2004 Spring

酒類・加工食品業界全体で、企業間情報交換の標準化をめざしてほしいと願っています。

**標準化すればするほど
流通全体は効率化します。**

国分(株) 代表取締役会長兼社長
國分 勸兵衛 様



3号 2004 Summer

枝葉末節に走らず、そのしくみの良さを生かすために何をしたらいいかを考える視点を、いつも大事にしていきたいと考えています。

キリンビール(株) 代表取締役社長
荒蒔 康一郎 様



8号 2006 Summer

標準化への取り組みを後回しにしたりするのではなく、「まず標準ありき」というスタンスで取り組むべき課題ではないかと考えています。

(株) トーカン 代表取締役執行役員社長
菊子 健二 様



5号 2005 Spring

そこ(情報共有インフラ)に参加することで、すぐに競争力が高まるしきみではありませんが、これに落伍したなら、必然的に生き残りすら難しくなります。

カゴメ(株) 代表取締役社長
喜岡 浩二 様



7号 2006 Winter

一つの大きな環境を作って、それに合わせてメーカーも小売も卸も共通のデータでやりとりするという考え方は、世界も日本も、そしてどの企業も一致していると思います。

ネスレ日本(株) 社長兼CEO
ホセ・ロペス 様



9号 2006 Winter ※創立20周年

ファイネットが発展できた一番大きな根拠は、出資各社のご協力はもちろん、出向して業務を担ってくれた各人も、みんなファイネットのことをマイカンパニーだと考えて、真摯に関わってくれたからだだと思います。

日本水産(株) 代表取締役社長 (前株)ファイネット 代表取締役社長
垣添 直也 様





10号 2007 Spring



品質を創りあげるのはあくまでも人だということです。情報システムを含むシステムだけで品質保証ができるわけではありません。キューピー(株) 代表取締役社長 鈴木 豊様

14号 2008 Autumn



時代と共に伸びていくチャネルと一緒に取組んでいくことは大事なことです。伊藤忠食品(株) 代表取締役社長執行役員 濱口 泰三様

21号 2011 Summer ※創立25周年



会社はこんなに伸びていてこれで良いんだというところから衰退が始まるとよく言います。(株)ファイネット 元代表取締役専務取締役 大野 義也様

15号 2009 Spring

ファイネットのポテンシャルを業界として全面的に活用しているとはまだまだ言い難い。もっとスピードを以て推進していくことが重要だと考えます。(株)ニチレイフーズ 代表取締役社長 相馬 義比古様



21号 2011 Summer ※創立25周年



ファイネットとして今後どう生きるか、メーカーも卸店も量販店も関係なく、自分たちが生きる道はここだという発想で、どうアプローチするかだと思います。日本水産(株) 代表取締役副社長執行役員 佐藤 泰久様

21号 2011 Summer ※創立25周年



ルール化を推進できる立場にあるのはファイネットでありキングマスターである事は事実です。(株)日立フーズ&ロジスティクスシステムズ 取締役副社長 高橋 勇様



トップインタビュー (創刊号~15号)

創刊号から全15回にわたり、トップ経営者の皆様に、業界の最新動向や企業間情報交換における国際標準化の重要性、ファイネットへの期待などをお伺いいたしました。

- 創刊号 味の素(株) 代表取締役社長 江頭邦雄様「世界の標準化に、ぜひ日本から発信を！」
- 2号 国分(株) 代表取締役会長兼社長 國分勲兵衛様「業界を挙げて、企業間情報交換の標準化を！」
- 3号 キリンビール(株) 代表取締役社長 荒蒔康一郎様「企業間情報交換の質とスピードを高めていかなければ！」
- 4号 加藤産業(株) 代表取締役社長 加藤和弥様「経営の本質を踏まえて「標準化」に取り組もう！」
- 5号 カゴメ(株) 代表取締役社長 喜岡浩二様「ファイネットが構築する「しみ」は業界共通の財産です。」
- 6号 (株) 菱食 代表取締役会長 廣田正様「情報システムは「消費」と「生産」を結ぶ価値ある架け橋」
- 7号 ネスレ日本(株) 社長兼CEO ホセ・ロベス様「ビジネス・オペレーション統合の一環として、情報システムの標準化に取り組む。」
- 8号 (株) トーカン 代表取締役執行役員社長 菊子健二様「地域に密着した卸を展開するために、情報活用と情報投資を重視。」
- 9号 日本水産(株) 代表取締役社長 垣添直也様(前(株)ファイネット 代表取締役社長)「競争は市場で、インフラは共同で。そんな思いからスタートし、業界のデファクトスタンダードへ。」
- 10号 キュービー(株) 代表取締役社長 鈴木豊様「情報システムを最大限に活用し、加工食品メーカーの生命線である品質保証に取り組む。」

- 11号 (株)日本アクセス 代表取締役社長 吉野芳夫様「新情報システム「キャプテン」を軸に、経営改革・業務改革を実現し、「次世代卸」にチャレンジ」
- 12号 (株)マルハニチロホールディングス 代表取締役社長 五十嵐勇二様「経営統合により、情報を含めたシナジー効果の創出を目指します。」
- 13号 (株)久世 代表取締役社長 久世健吉様「情報化による正確・迅速な配送をベースに、業務用卸としてのソリューションを強化。」
- 14号 伊藤忠食品(株) 代表取締役社長執行役員 濱口泰三様「販売チャネルの変化に注目し、情報システムを軸とした生産性向上で成長を目指す。」
- 15号 (株)ニチレイフーズ 代表取締役社長 相馬義比古様「情報を活用することで、価値と価格の最適なバランスを追求していく。」

情報システムは「消費」と「生産」を結ぶ価値ある架け橋

株式会社菱食
代表取締役会長
廣田 正 様

情報システムは「消費」と「生産」を結ぶ価値ある架け橋

(株)トーカン
代表取締役執行役員社長
菊子 健二 様

6号より

対談、座談会 (16号~23号)

16号から23号までは、メーカー・卸のご担当者様にご登場いただき、業務効率化やファイネットの新サービスなど、その時々の特トピックスについてお話しいただきました。また、21号、22号では、当社創立25周年の特別企画として、OBの皆様に創業当時のことを振り返っていただくとともに、これからのファイネットについてご意見をいただきました。

- 16号 キリンビール(株) 取締役SCM本部長 藤本吉伸様、(株)ニチレイフーズ 執行役員企画本部長 加藤直二様、日本水産(株) 取締役総務部長 佐藤高輝様「メーカー各社の大規模災害への具体的な対応を聞く——食品・飲料メーカー各社の危機管理対策」

- 17号 (株)菱食 加食商品本部長 田口耕輝様、味の素(株) 食品カンパニー 物流企画部長 佐藤建様「営業部門業務効率化視点での販促金EDI取り組みについて」
- 18号 イオンアイビス(株) ビジネスサービス本部本部長 宮崎峻様、(株)シージージャパン 管理サポート本部副本部長兼ビジネスサポート統括部長 兼CAP推進室長 田中彰様、キュービー(株) 品質保証本部 品質情報センターセンター長 妻谷勝弘様、(株)ニチレイフーズ 品質保証部長 片山博視様「品質系情報の標準化~「情報項目の標準化」段階から実用化に向けて!~」
- 19号 旭食品(株) 情報システム本部 情報管理部部长 竹内恒夫様、日本酒類販売(株) 情報物流本部 情報統括部長 大西完治様「ファイネットVANへの集約によるEDIの活用拡大」

これからのファイネットを考える

Finet Feature Articles

これからのファイネットを考える

Finet Feature Articles

- 20号 ①(株)ニチレイフーズ ロジスティクス部部長 小松唯史様、(株)ニチレイフーズ ロジスティクス部 受注センター 所長 前橋義勝様 ②(株)ヤグチ 執行役員 情報システム部長 坂本親英様、(株)ヤグチ 情報システム部課長 竹端祥一様「FAX交換サービス利用による業務効率化の推進」
- 21号 日本水産(株) 代表取締役副社長執行役員 佐藤泰久様、(株)ファイネット 元代表取締役専務取締役 大野義也様、(株)日立フーズ&ロジスティクスシステムズ 取締役副社長 高橋勇様「ファイネットの25年を振り返って」
- 22号 国分(株) 経営企画部長兼事業開発部長 取締役 奥村恒弘様、カゴメ(株) 営業管掌 コンシューマー事業本部長 取締役 専務執行役員 寺田直行様「これからのファイネットを考える」
- 23号 サントリービジネスエキスパート(株) ビジネスシステム本部 グループ情報システム部部長 谷川功様、加藤産業(株) 情報システム部部長 高原一夫様「GTIN-EDIを利用した販促金EDIの普及に向けて」

22号より

ファイネット・ユーザー訪問 (創刊号～15号)

当コーナーでは、メーカー7社、卸6社における当社サービスを活用した業務効率化への取り組みについてご紹介しました。



6号より

- 創刊号 (株) トーカン様
 - 2号 宝酒造(株)様
 - 3号 (株) 久世様
 - 4号 ミツカングループ様
 - 5号 マルハ(株)様
 - 6号 (株) 永谷園様
 - 7号 旭食品(株)様
 - 8号 日清フーズ(株)様
 - 10号 ヤマエ久野(株)様
 - 12号 (株) トーホー様
 - 13号 (株) ジャパン・インフォレックス様
 - 14号 エスピー食品(株)様
 - 15号 メルジャン(株)様
- 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN
 - 商品流通VAN、FDB
 - 資材VAN
 - 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN
 - 商品流通VAN
 - FDB
 - 商品流通VAN、FDB
 - 商品流通VAN、FDB

外からみたファイネット (26号～)

マスコミ、業界団体、有識者など、社外の皆様から当社に対する率直な評価や要望などをご寄稿いただいております。現在も好評連載中です。



26号より

- 26号 (株) 食品新聞社 東京本社 編成局記者 横田弘毅氏「「攻めの共有インフラ」に期待」
- 28号 一般財団法人流通システム開発センター 理事 斎藤静一氏「標準化活動等の観点からみたファイネットへの期待」
- 30号 公益財団法人流通経済研究所 理事長 明治大学専門職大学院教授 上原征彦氏「関係性資産の展開と活用を！」

ファイネット ヘルプデスク便り (23号～)

ファイネットの主要サービスである「商品流通VAN」「資材VAN」のサポートを行っているヘルプデスクの取り組みおよび、提供サービスについてご紹介しております。現在も好評連載中です。



29号より

- 23号 ヘルプデスクのサービス・業務概要
- 24号 エラー監視
- 25号 データ再セットサービス
- 26号 臨時データ送受信サービス
- 27号 商品流通Web状況照会サービス
- 28号 別データ種 設定サービス
- 29号 手続きサイト「担当者登録状況」
- 30号 インシデント管理システム

ファイネットの動き (2003年～2014年)

- 2003年 10月 機関誌「FINE FINET」を創刊
- 酒類・食品業界標準化推進会議の設立に関わる
- 2004年 6月 浦野光人が代表取締役社長に就任
- 8月 アテネ五輪で日本人選手が活躍 (金16 銀9 銅12)
- 2005年 1月 ISMS (情報セキュリティマネジメントシステム) の認証取得
- 4月 個人情報保護法施行
- 2006年 4月 創立20周年
- 2007年 1月 ISO/IEC 27001 (情報セキュリティマネジメントシステム国際規格) の認証取得
- 2008年 1月 中国の冷凍餃子毒物混入事件発覚
- 6月 山口範雄が代表取締役社長に就任
- 9月 リーマン・ブラザーズが経営破綻
- 2009年 1月 バラク・オバマが黒人初のアメリカ合衆国大統領に就任
- 9月 政権交代で民主党・鳩山由紀夫内閣成立
- 2010年 3月 首都圏大規模災害に備えて商品流通VAN緊急避

- 難システムを関西地区に構築
- 11月 FDBがプラネットの商品データベースと相互連携を開始
- 2011年 3月 東日本大震災と東電福島第1原発事故発生
- 4月 創立25周年
- FAX変換サービス (出荷案内書) を開始
- 8月 GTIN-EDIのガイドブック3種策定
- 2012年 4月 商品流通VANにおいてWebEDIで販売実績データ・販促金データの送受信が可能に
- 6月 細見典男が代表取締役社長に就任
- 全銀協TCP/IPへ完全移行
- 10月 国連WFP協会の評議員に加入
- 山中教授がiPS細胞でノーベル賞受賞
- 11月 PDF変換サービス (販売促進金請求書) 開始
- 2013年 6月 富士山が世界文化遺産に登録される
- 9月 2020年夏季オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定
- 10月 「インターネット手順」のサポートを開始
- 緊急避難システムをリプレース

* 赤：ファイネットの出来事 / 黒：一般の出来事

3 標準化推進活動の変遷

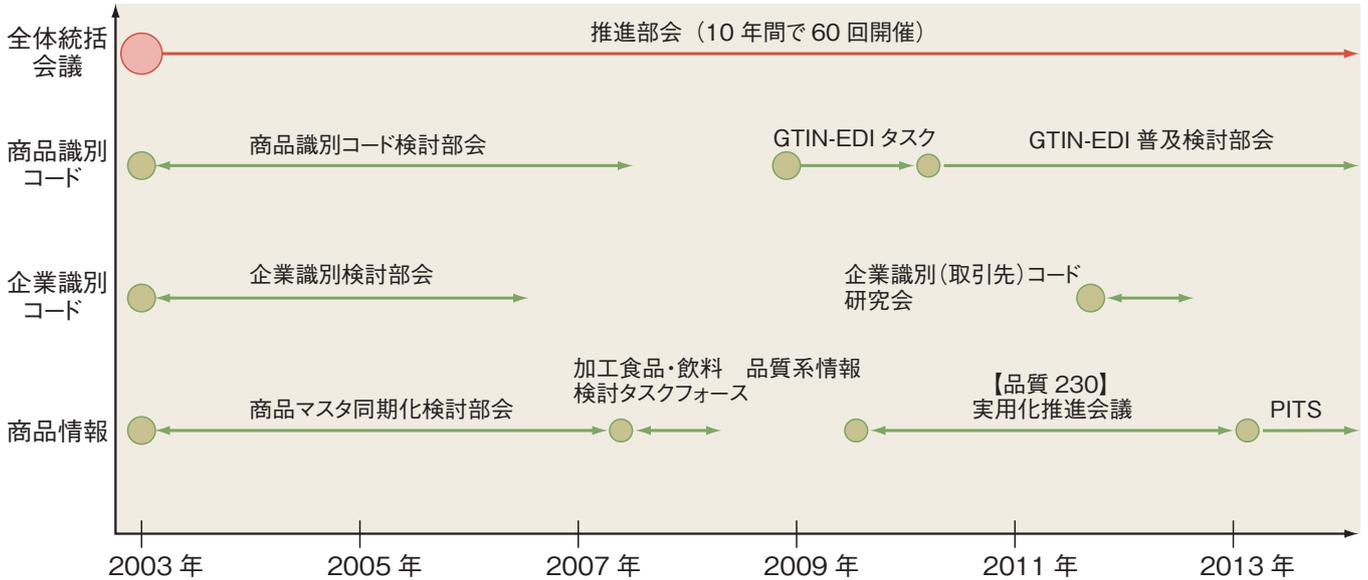
当業界における標準化を早期に浸透させるべく、2003年よりファイネットは、酒類・加工食品業界の標準化に努めてきました。

推進部会(全体を統括する会議体)を中心に、その時々
の検討範囲、内容によって、下部組織の会議体の名前を

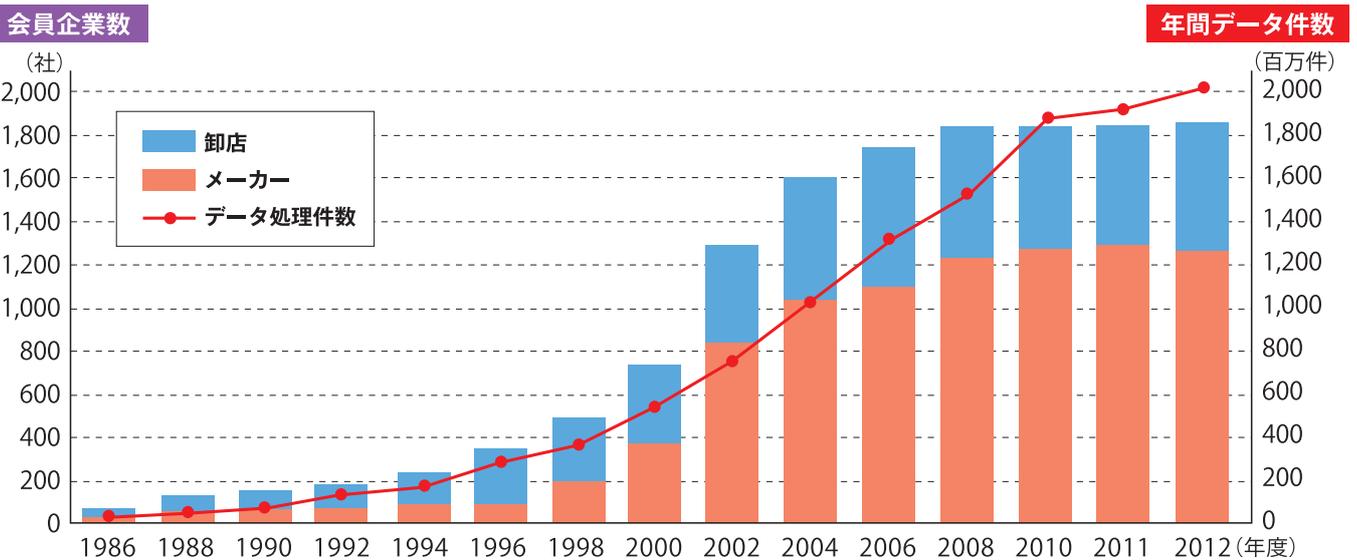
変えながらも、商品識別コード、企業識別コード、商品情報
の標準化などを推進しています。

今後もファイネットは、標準化を通じた業界全体コスト
の削減に取り組んでいきます。

ファイネットが事務局を務める主要な標準化の会議体



4 商品流通VANサービスの会員企業数と取り扱いデータ件数の推移



『FINE FINET』のバックナンバーをご希望の方は下記までご連絡ください

株式会社ファイネット 営業推進部 Tel.03-5643-3450 e-mail.info@finet.co.jp

関係性資産の展開と活用を!

シリーズ3：研究者からみたファイネット

今号では、マーケティング論・経営戦略論がご専門の明治大学専門職大学院・上原征彦教授に、中間流通取引における基本的な機能をご説明いただくとともに、今後さらにITの重要性が増すなかで、ファイネットが展開すべき企業戦略の方向性について、ご寄稿いただきました。

公益財団法人流通経済研究所 理事長
明治大学専門職大学院 教授
上原 征彦 氏



周知のように、ファイネットは、酒類・加工食品業界のメーカー約1,300社、卸売業者約570社からなるVAN会社であり、生鮮品を除く飲食料品の中間流通取引の大半がファイネットを通じて行われているとあってよい。ここで、ファイネットに膨大な取引と、これにかかわる情報が集中していることに注目すべきであろう。

中間流通に要請される最も基本的な機能は、取引を集中させることによる費用削減（これを費用最小化機能と呼ぶ）と、情報が集められることによる価値の創造（これを情報縮約機能と呼ぶ）である。中間流通に携わる個々の企業にとって、この費用最小化機能と情報縮約機能を十分に担えるかどうか、ということが生存のための必要条件となっている。

ファイネットは、多数の企業にシステムを利用してもらうことによって膨大な取引・情報をそこに集中させているため、個々の企業による取引・情報の集中化と比べ、はるかに強力な費用最小化機能と情報縮約機能を発揮できるポジションにある。したがって、ファイネットに参加している企業の各々は、そのシステムを利用することによって、この2つの機能を効率的に強化できるため、生存条件を比較的容易にクリアしつつ成長戦略に注力することが可能となるのである。

これからは、ITが経営に大きな位置を占めるようになるが、上記のファイネットの機能は、ITの進化をベースにして、ますます強化されていくであろうし、また、われわれはこれに期待している。というのは、ITは、取引・情報が集中する場でこれを適用することによって、流通の有効化・効率化に最も作用するからである。

たとえば、メトカルフェの理論によると、ファイネットへ取引・情報が集中することによってITが生み出す価値は、そのシステムに参加する企業が増えるにつれて、幾何級数的に増え、この価値増殖を参加企業に還元していくことがファイネットのコアコンピタンスになっていく。このことを考えると、ファイネットにとって参加企業数が増えていくことが成長の最も重要な条件となる。参加企業が多数になるにつれ、ファイネットと参加企業との関係性の価値は高まる。これを関係性資産と呼ぶことができる。

上記のような参加企業数の拡大は、業種・業態を超えて進んでいくであろう。ITネットワークは、多様性が高まれば高まるほど、その価値増殖効果は飛躍的に高まっていく。最近、業種・業態を超えたビジネスが展開され、異業種・異業態の統合や連携が増えている。流通業界でみると、たとえばコンビニエンスチェーンと宅配業者・ネットスーパー・卸売業が組んで、配食サービス、移動販売、介護サービスなど多様なビジネスを展開する動きもある。こうした動きはこれから増えていくであろうし、これが業界再編成を推進していく。ファイネットもこうした潮流に遅れをとらない戦略を展開していただきたい。

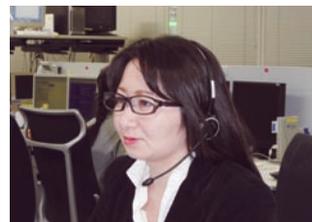
ファイネット ヘルプデスク使い

インシデント管理システムのご紹介

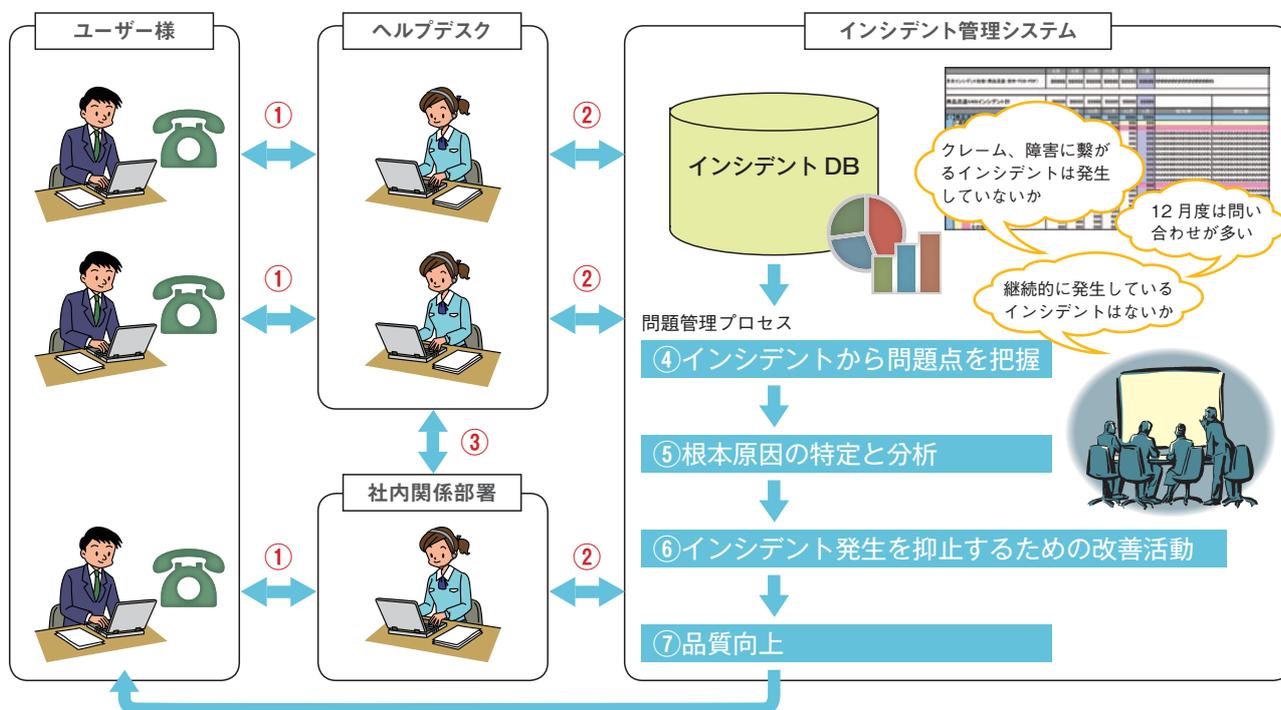
ファイネット ヘルプデスク（以下、ヘルプデスク）では、ユーザー様からのお問い合わせや、通信エラーなどの対応を「インシデント」と呼んでいます。ヘルプデスクのサポート業務では、インシデントの管理・活用が最重要だと認識しております。今回は、そのインシデント管理についてご紹介いたします。

■ インシデント管理システムとは

ヘルプデスクにて対応している、様々なお問い合わせや、通信エラーなどの対応を一元管理することで、ユーザー様への対応品質を向上させることを目的としたシステムです。



■ インシデント管理システムの概要



〈インシデント管理の流れ〉

- ① インシデントの受付および対応
- ② インシデントの登録
- ③ 社内関係部署との連携
- ④ インシデントから問題点を把握
- ⑤ 根本原因の特定と分析
- ⑥ インシデント発生を抑止するための改善活動
- ⑦ 品質向上

■ インシデント管理システムの目的

ファイネットでは、インシデント管理システムを用いて以下の取り組みを行っております。

- ・ インシデントの傾向分析……どのようなお問い合わせがきているか全体を把握する。
- ・ ヘルプデスクの品質向上……ユーザー対応（時間、内容）に問題がないかを確認する。
- ・ インシデントの発生抑止……継続的に発生しているインシデントについて対策を実施する。
- ・ インシデントの予防処置……障害、クレームに繋がるようなインシデントについては事前の対策を実施する。

なお、ご登録いただいております個人情報につきましては、当社プライバシーポリシーに従い運営・管理いたします。

お問い合わせは、ファイネット ヘルプデスク (0120-091-094) までご連絡ください。

「インターネット手順」への切替で 通信がますます便利に！

2013年10月より商品流通VANおよび資材VANで「インターネット手順」のサポートを開始しました。「インターネット手順」に切替えられたユーザー様では、通信時間の飛躍的な短縮を実現されています。また、通信時間の短縮以外にもたくさんのメリットがございます。

通信時間の飛躍的な短縮を実現！～A社の切替事例～



「インターネット手順」のメリット

- ✓ 飛躍的、圧倒的な通信速度向上 ～通信速度の単位が違います！
- ✓ 安価な通信費用 ～電話会社の通信料がなくなります！
- ✓ 災害に強い通信インフラの利用 ～今後も安定して通信機器を調達できます！
- ✓ 海外のお取引先との通信や自社サーバーの海外運用も可能

▶「インターネット手順」の概要

これまでのISDN/公衆回線を利用する全銀協TCP/IP手順に加えて、新たに以下3つの手順からお選びいただけます。

通信手順の種類	通信速度	通信方式	特徴
① ebXML MS 手順	10M～100Mbps	Push型 ^{※1}	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準の通信手順で主にアジア圏で利用拡大 ・サーバー間通信、大規模システム向け ・サーバーの管理、運用を含めて相応のセキュリティ対策が必要 ■グローバル認証局または流通業界共通認証局から「証明書」の取得が必要です。
② AS2 手順	10M～100Mbps	Push型 ^{※1}	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準の通信手順で主に欧米圏で利用 ・サーバー間通信、大規模システム向け ・サーバーの管理、運用を含めて相応のセキュリティ対策が必要 ■グローバル認証局または流通業界共通認証局から「証明書」の取得が必要です。
③ JX 手順	10M～100Mbps	Pull型 ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> ・日本独自の通信手順 ・PCにも導入可能、小中規模システム向け ・サーバー間通信ではないため、①②より導入のハードルは低い
(参考) 全銀協TCP/IP 手順	56K～64Kbps	Pull型 ^{※2}	

※1 Push型：ユーザー様が送信するデータの場合はユーザー様から接続を行い、ユーザー様が受信するデータの場合はファイネットから接続を行う方式。

※2 Pull型：ユーザー様から接続をして送受信する方式。

* 「インターネット手順」への切替に伴う送信ファイルや受信ファイルの内容変更はございません。

* お取引先の通信手順に関係なく選択できます。

サポート開始以来、20社（メーカー5社、卸店15社）より「インターネット手順」ご利用のお申し込みをいただいております。さらに18社で現在ご利用の通信手順から「インターネット手順」への切替を検討されています。通信環境の見直し、改善をお考えの際は、多くのメリットがある「インターネット手順」をご検討ください！

◆本サービスに関するお問い合わせ先◆

株式会社ファイネット 営業推進部 【TEL】 03-5643-3450 【e-mail】 info@finet.co.jp

商品情報授受の標準化、効率化実現を目指して

～活動のステージは【品質 230】から PITS へ～

食の安心安全に対する関心の高まりを背景に、商品規格書をはじめとする商品情報授受の頻度が年々増えているなか、商品情報の項目定義や授受手段が取引先ごとに異なるケースが多いことから、商品情報授受の標準化、効率化の実現が業界全体の大きな課題となっています。

これまで GCI ジャパン品質系タスクフォースで製配販 3 層が一堂に会し、品質系情報 230 項目からなる標準項目を定義し（【品質 230】）、実活用を目指してきました。しかしながら、230 項目には相対で授受すべき項目も含まれており、広く実活用には至りませんでした。

こうしたなか、従来の活動内容を継承しつつ製配販 3 層の業務実態を踏まえ、商品情報授受効率化を検討する新たな会議体として「商品情報授受標準化会議（PITS）」が設立されました。

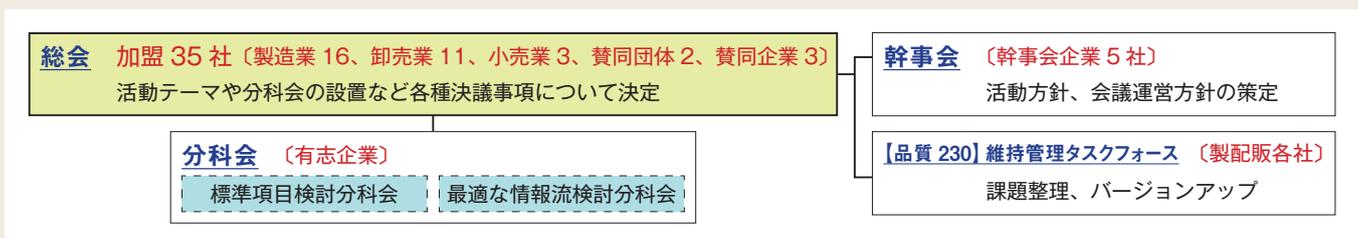
1 ▶ 商品情報授受標準化会議（PITS）とは Product Information Transfer Standard

【設立】 2013年5月

【ミッション】 製配販3層における業務実態を踏まえ
商品情報授受の効率化を目指す

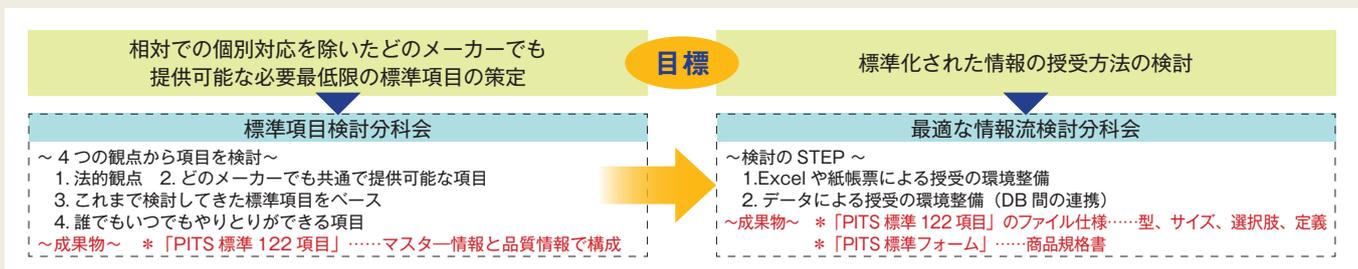
【会議体構成】〔議長企業〕味の素、ニチレイフーズ

〔幹事会企業〕議長企業、イオン、国分、
トーヨービジネスサービス
※ファイネットは全会議体の事務局



2 ▶ 2つの目標と2つの分科会 (2013年度)

2013年度は2つの活動目標を掲げ、目標達成に向けた2つの分科会が設立されました。この分科会を通じて、マスター情報と品質情報で構成される「PITS標準122項目」と、そのファイル仕様およびExcelや紙帳票による授受を踏まえた「PITS標準フォーム」（商品規格書）が策定されました。



3 ▶ 「PITS標準フォーム」の実活用スタート (2014年度)

2014年度は「PITS標準フォーム」の実活用をスタートさせ、小売業、外食産業を中心に普及推進を図っていくとともに、賛同企業としてDB事業者を加えることで、PITSに準拠したファイル仕様の標準化やDB間連携等の可能性について検討を行っていく予定です。最後に、PITSでは皆様の積極的な参画をお待ちしております。会議参加費等は一切無料ですので、ご興味のある方は下記までお問い合わせください。

◆PITSに関するお問い合わせ先◆

株式会社ファイネット 営業推進部 【TEL】 03-5643-3450

【e-mail】 info@finet.co.jp

ファイネットは国際規格「ISO27001」の認証を取得しております

当社は、ユーザーの皆様から預かる情報資産を様々な脅威から保護し、セキュリティ対策を確実なものとするために、ISO27001*を取得しております。

* ISO27001 は、組織が保有する情報にかかわる様々なリスクを適切に管理し、組織の価値向上をもたらす ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際規格です。情報資産を保護し、利害関係者の信頼を得るセキュリティ体制の確保を目的とするフレームワークです。

1 ▶ ISO27001 の認証取得について

当社は、酒類・加工食品業界の企業間データ交換サービス（商品流通VAN・資材VAN・商品情報データベース）を事業の根幹としており、酒類・加工食品業界の「共通情報インフラ」として、安全で安定的かつ高品質なサービス提供が重要な経営課題と認識しております。

これら事業で当社が取り扱うデータ、ドキュメントならびに情報処理システム（ハードウェア・ソフトウェア）などの情報資産は、当社の経営基盤として極めて重要なものであり

ます。情報資産に対して、漏洩・改ざん・破壊・紛失または不正使用などの脅威が蔓延しており、脅威が現実化した場合には、当社の信頼を失うこととなるとともに、ユーザーの皆様にも多大なご迷惑をかけることとなります。

これらを背景に、2003年の取得の取り組み開始から10年に渡り、ISO27001の認証を継続することにより、万全な情報セキュリティ体制を構築し、より一層、ユーザーの皆様や社会的な信頼を得ることができました。

2 ▶ ISO27001 の維持・管理について

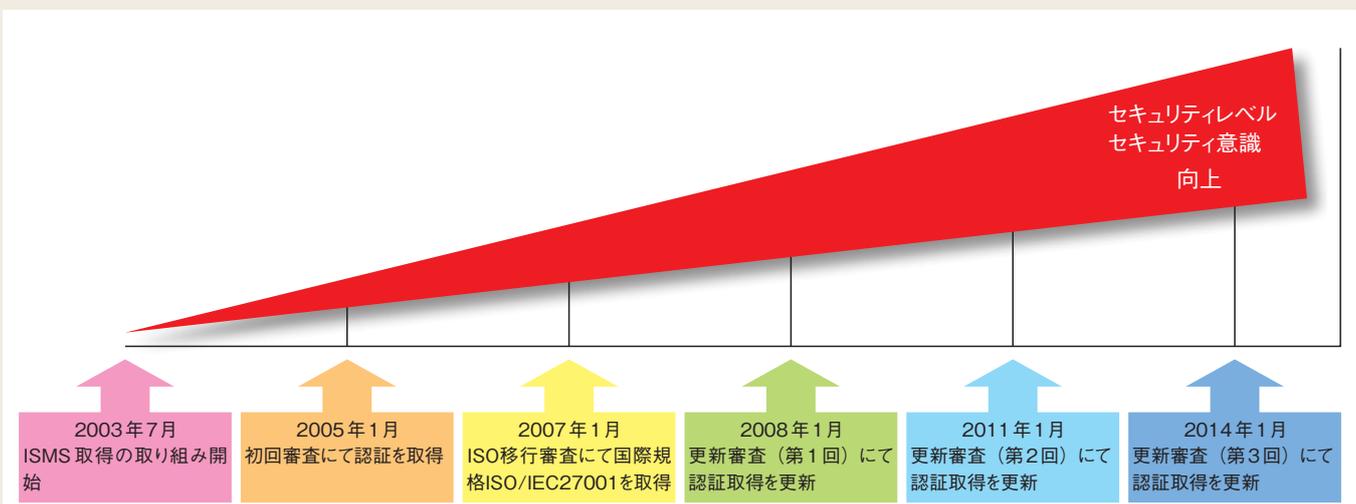
全社横断的な情報セキュリティ委員会を設置し、情報セキュリティマネジメント体制を確立させ、社員全員に浸透しています。

毎月開催される情報セキュリティ委員会において、セキュリティ体制や日々の運用を確認および改善することで、情報セキュリティを維持しております。



情報セキュリティ委員会のメンバー

3 ▶ ISO27001 の認証取得の歩み



[Finet Announcement] ファイネット・アナウンスメント

ナビダイヤル (0570) への変更はお済みでしょうか？

ファイネットでは、首都圏において大規模災害発生時にも継続してサービスの提供ができるように、関西地区に「緊急避難システム（以下、DRサイト）」を構築しています。

〈ナビダイヤル (0570) および、大阪 (06 番号) をご利用のユーザー様へ〉

DRサイト発動時はセンター側で接続先（アクセスポイント）をDRサイトへ自動切替しますので、電話番号の変更は不要です。また、ナビダイヤル (0570) は災害時に輻輳*となる可能性が低く、災害耐性に優れた番号ですので、大阪 (06 番号) をご利用のユーザー様も、通常時からナビダイヤル (0570) をご利用いただくことをお勧めします。

*輻輳：電話回線のアクセスが集中することで、許容量を超えてしまい、接続ができなくなる状態

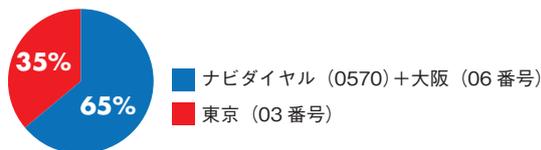
〈東京 (03 番号) をご利用のユーザー様へ〉

DRサイト発動時は、ユーザー様にて接続先をナビダイヤル (0570) に変更する必要があります。災害時への備えとして、通常時からナビダイヤル (0570)

への変更をお願い申し上げます。

☎ すでに65%のユーザー様がナビダイヤル (0570) +大阪 (06 番号) をご利用いただいております。

接続先（アクセスポイント）の利用実績



※2014年2月28日時点

【対象サービス】

商品流通VAN（ホスト接続）、資材VAN（ホスト接続）

【お問い合わせ先】

ナビダイヤル (0570) につきましては、下記までお問い合わせください。

〔ファイネット ヘルプデスク〕

 **0120-091-094**

（年中無休7:30～23:00）

加入申し込み内容に変更はございませんでしょうか？

新年度のスタートに伴い、加入者情報の変更が生じた場合、「手続きサイト>各種お申込み」より登録、変更をお願いいたします。

以下の変更内容をご確認のうえ、各種申し込みメニューよりお申し込みください。

変更内容	申し込みメニュー
利用窓口、請求担当の変更	担当者変更
登録済み利用窓口、請求担当の住所、連絡先などの変更	担当者情報変更
利用窓口2、緊急避難システム担当者（商品流通VAN）の追加	担当者追加

- ご登録いただきました加入者情報は当社サービスのご利用・提供上必要なご連絡および書類等の際に活用させていただきます。
- なお、ご登録いただきました個人情報につきましては、当社プライバシーポリシーに従い運営、管理いたします。

【お問い合わせ先】

〔ファイネット ヘルプデスク〕

 **0120-091-094**

（年中無休7:30～23:00）



FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.30 2014 Spring [特別号] 2014年4月1日発行

[発行] (株) ファイネット 東京都中央区日本橋兜町13-2 兜町偕成ビル(本館) 7F 〒103-0026
Tel.03-5643-3400 Fax.03-5643-3499 [編集・発行責任者] 仲小路 啓之



<http://www.finet.co.jp>